

第 4 回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」の概要

1 日 時 令和 3 年 8 月 3 0 日（月） 午後 1 時から午後 3 時まで

2 場 所 徳島県庁 1 0 階 大会議室

3 出席者

（1）委 員 1 4 名中 1 3 名出席

（2）県教委 教育次長，教育創生課長，他事務局員計 3 名

4 議事概要

（1）事務局説明

①スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価等について

②「公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策」について

（2）意見交換

5 意見交換において検討会議委員から出された主な意見

（1）スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価等について

①地域の教育力や保護者の力等を活用する観点からも，学校運営協議会でスクール・ポリシーに基づく教育活動の評価等を行うことは理解できる。

（2）「公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策」について

①スクール・ミッション，スクール・ポリシーのもと，各校が切磋琢磨し，特色や魅力を持った協働的な学びを創出していく必要があるのではないか。

② I C T の活用や，部活動の合同チーム編成等による高校間の連携の観点から，協働的な学びの確保に向けた方策を考える必要がある。

③地域や各種団体，企業，同窓会の先輩等，学校外の方々と関わる機会を創出し，様々な考え方や価値観に触れ，生徒の可能性を広げてもらいたい。

④学校外との連携による協働的な学びを充実させるために，オンラインを活用した教育活動のより一層の推進を図ってほしい。

⑤部活動や学校行事等，リアルな生徒同士の関わり合いが協働的な学びの基本となるので，多様性確保の観点から，適正規模を維持する必要がある。

⑥原則として，各校の生徒数に応じて教職員数が決まる。生徒数減に伴い，教職員数も減り，学校運営が困難になるので，一定の学校規模が必要である。

⑦学校が小規模化することで教育活動に様々な制約が生じる。将来的な生徒数の減少を見据えて，再編統合して高校の魅力化を図る視点も必要ではないか。